

どうする?!こんなとき

応急手当●心肺蘇生法

呼吸がなかったら...

こんなとき、救急車が到着するまでに、わたしたちで応急手当を行うことが必要です。応急手当は“命を救う第一歩”正しい方法を覚えておきましょう。

呼吸がない

●まずは気道を確保

①必ず口の中を見て、異物がないことを確認します。

②口を開ける時は指を交差させて、親指を上、歯に人差し指を下、歯に当てて開きます。

③異物や分泌物があったら顔を横に向けて、ガーゼやハンカチなどを指に巻いてかき出します。

④人差し指と中指をあごの先に当てて、もう片方の手を額に当てます。

⑤あごの先を持ち上げるようにしながら額を静かに押し下げて、頭を後ろに反らせます。

⑥呼吸が始まったか確認します。それでも呼吸しない!

●人工呼吸を開始

①額を押さえていた手の親指と人差し指で、鼻をつまみます。

②大きく口を開けて空気を吸い込み、そのまま傷病者の口をおおって、2秒くらいかけて胸が軽く膨らむ程度に息を吹き込みます。

③吹き込み終わったら口とふさいだ鼻を離します。傷病者の胸とおなかの動きを見ながらはき出される息を頬で感じ取って、気道がきちんと確保されているか確かめます。

④人工呼吸は5秒に1回の割合で吹き込みます。(成人の場合)

※乳幼児は顔が小さいので、多くの場合は口と鼻から息を吹き込みます。大人と比べ回数も多く、3秒に1回くらいのペースで息を吹き込みます。

注意 傷病者の状態によって多様な注意点があり、誤った技術の使用はかえって危険を招きます。必ず資格をもつ人のもって、正しい知識と技術を体得してください。



救急出動1日3.6件

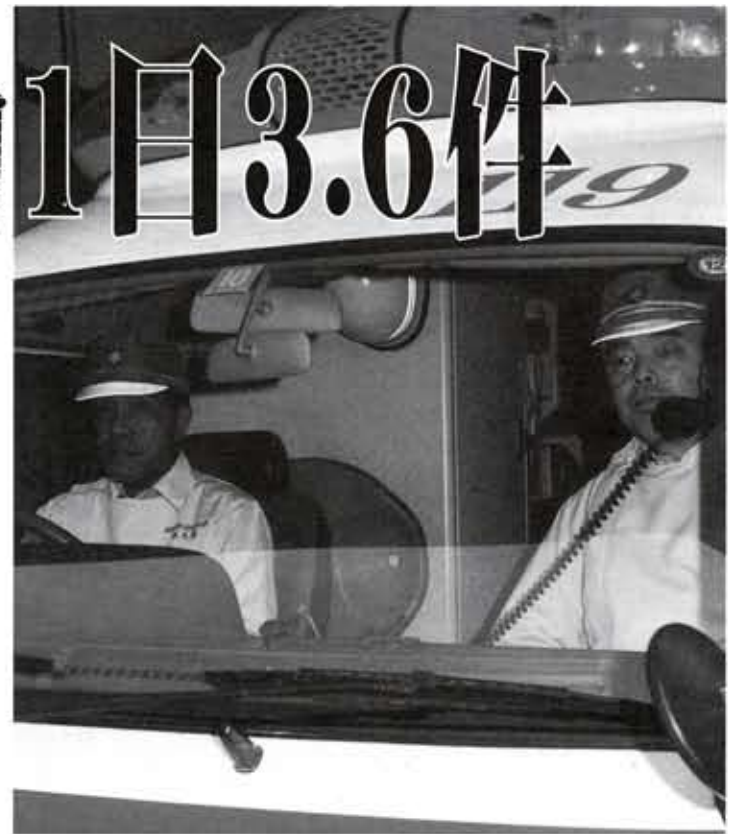


四分の一が70歳代の高齢者
平成11年一年間の救急事故発生件数は、1,326件で、平成10年に比べ30件の増加となり、平成7年から毎年最高件数を更新しています。

その内訳は、急病704件、交通313件、一般負傷176件で、全出動件数の90%を占め、一日平均の救急事故発生件数は3.6件となりました。搬送人員は1,319人で、市民の40人に一人が救急隊によ

て病院へ運ばれたことになり、消防本部ではその取り組みとして、救急資機材等の整備や救急隊員等の資質の向上を図りながら、市民を対象とした応急手当講習会を開催し、急手当習得者を増やすことで、医療機関への収容までのプロセスを充実します。

救急講習会等の申し込み
消防本部救急課
☎934-0119

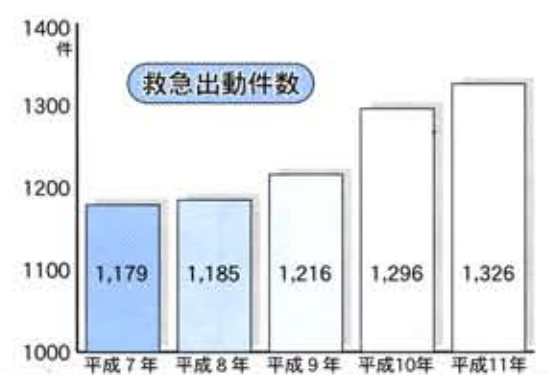


安心・安全のまちへ
救急救命士の配置や応急手当の普及啓発を推進

安心・安全のまちはだれもの願いであり、健康なまちの前提です。消防本部は、まさに24時間市民の生命と財産を守っています。

消防本部では、火災や事故を未然に防くとともに、昨年配置された救助工作車などによる消防力の強化、一人暮らしの高齢者とのあんしんホットラインの設置や救急救命士の配置などの取り組みを続けています。

今回は、平成11年の救急出動件数を見ながら、救命率向上につながる応急手当やあんしんホットラインの概要を紹介します。



あんしんホットライン

ご利用ください

市では、一人暮らしの高齢者や病気の発作などの不安を持つ方が、日常生活を安心して過ごせるように、「あんしんホットライン」を運用しています。

あんしんホットラインは、右図のような概要で、次の要件の方に適用されています。ご利用ください。

■対象者

- ①65歳以上の一人暮らしで虚弱な方
- ②一人暮らしの方で、重度の心疾患又はぜんそくなどで突発的に生命に危険な発作を起こしたり、意識をなくしたりするような症状が発生する持病がある方
- ③寝たきり又は身体障害者で、災害が発生したときに、自分自身で避難することが難しく、日常生活で介護を必要とし、独居状態である方など

■費用

①設置費用については市が負担します。②通話に必要な費用は利用者負担です。

■その他詳細についてのお問い合わせ

消防本部総務予防課・救急課☎934-0119、高齢者福祉課(内線327)、社会福祉課(内線307)

あんしんホットラインの概要

